



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第9号

2008年4月1日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒104-0044

東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

FAX: 03-5565-1626

E-mail: jsns-office@slcn.ac.jp

組織的に看護技術開発に取り組むということ

日本学術会議連携会員

日本看護系学会協議会 副会長

小松 浩子



2008年2月13日、中央社会保険医療協議会（中医協）により、厚生労働大臣に対して平成20年度診療報酬改訂の答申が提出されました。この答申をうけ、2008年4月1日より、リンパ浮腫指導管理料が適用となります。具体的には、子宮悪性腫瘍、子宮附属器悪性腫瘍、前立腺悪性腫瘍又は腋窩リンパ節郭清術を伴う乳癌悪性腫瘍に対する手術を行った患者に対して、医師又は医師の指示に基づき看護師が手術前後にリンパ浮腫に対する適切な指導を個別に実施した場合に、入院中1回に限り診療報酬点数（100点）が算定されることとなります。日本がん看護学会では、理事会を中心に、リンパ浮腫予防、早期発見に関する患者教育、指導に関する診療報酬適用に向けて、組織的な取り組みを行ってきました。今回の答申は、学会事業のひとつの結実であり、会員の一人として大きな喜びです。学会がこれまでに取組んできた活動（診療報酬算定の根拠となるエビデンスの集積、看保連への医療技術評価提案書の提出、厚生労働省保険局医療課に対する説明、など）を通して、専門的な看護技術の開発、評価、適正化について考えたことを述べます。

ひとつは、エビデンスの効率的な集積の必要性です。学会誌は知の集積といえますが、医学領域のように、研究領域毎にエビデンスレベルの高い研究が集積されているわけではありません。技術開発をめざし、ある重点課題に関して文献レビューの投稿を募っていくことも大切な一歩と考えます。リンパ浮腫ケアのエビデンスに関しては、学会員でもある複数の大学院生が総力をあげてシステマティックレビューを担ってくれました。160に届く看護系大学が、大学院教育においてEvidenced based Nursingの基盤づくりに力を注ぎ、学生や若手研究者による看護技術開発に貢献する文献レビューの投稿を推進することができると思います。もちろん、看護技術開発のための評価研究がすすむことも望まれることです。

二つ目は、学会において、サブスペシャリティをもつ専門家集団が組織化されることの重要性です。日本がん看護学会では、特別関心活動グループ（Special Interest Group; SIG）として13のグループが活動しています。リンパ浮腫ケアグループもSIGの一つとし

て、自発的にメンバーとして登録した学会員により組織化が行われ、専門的能力を高めていく活動を行っています。今回の技術評価申請に関しては、このグループが大きな原動力となりました。メンバー間での円滑な連携のもと、事例報告および各施設における研修プログラム・ケアマニュアルなどの集積、研究成果の集積、アセスメントツール、教育用ビデオや用具などの集積が驚くほど短期間に行われました。これらをもとに、臨床現場においてどのようなケアが、どのような継続教育のもとに実施され、どのように評価されているかについて、全国レベルの資料としてまとめることができました。現在、これらのメンバーを中心に、リンパ浮腫予防、早期発見に関する患者教育、指導が標準化したケアとして実施できる看護師の育成を目的とした、標準研修プログラムが作成され、リーダー研修会の開催までに至っています。

3つ目は、患者・家族のニーズに耳を傾けることです。今回のリンパ浮腫ケアの診療報酬適用に至る背景には、がん患者・家族の皆さんの切実な声が国会の参議院予算委員会において取り上げられたことも大きな原動力となったと考えています。ケアに対する患者のニーズを政策提言へとつなげていける組織的取り組みを各学会が行っていくことも課題です。

最後に、他学会との協働です。がん医療は、チーム医療です。診療報酬に適用される技術は、チームにおける協働や連携によりその質が担保されます。リンパ浮腫ケアに関しても、学際的な実践が必要であり、感染や炎症等をアセスメントした看護師は専門医へとケアの連携を行っていかねばなりません。今後、この領域のケアを発展するために、看護系学会はもとより、日本乳癌学会等との学術的な連携が不可欠と考えています。

日本看護系学会協議会は、看護技術開発に関する知見や情報、現状や動向を集約し、社会にむけて看護技術の重要性について発信する役割を担っていると思います。問題提起や切磋琢磨する気運や組織化が格段にすすんでいけるよう、ニュースレターやシンポジウムなどで活発な論議をすすめていきましょう。

第8回日本看護系学会協議会公開シンポジウム

「ICTを活用した看護イノベーション」を終えて

日本看護系学会協議会理事 川口 孝泰・野嶋佐由美

2007年12月7日（金）東京国際フォーラムにおいて、第8回日本看護系学会協議会公開シンポジウムが「ICTを活用した看護イノベーション」をテーマに行われました。様々な課題に直面している今日の医療界にあって、よりよい看護の創造を求めてイノベーションすることが期待されています。とりわけ看護の情報化は、想像を超えた速さで日々進化しています。日常生活の中では、既にインターネットや携帯電話などの普及によって、ICT（Information and Communications Technology）という新しいコミュニケーションの世界が生まれています。この新しいコミュニケーションは、次代に向けた革命的な世界をつくることになり、看護もこれらを活用したケアへの展開が求められています。しかし一方では、新しいコミュニケーションが、これまでに経験のない障害を引き起こす危険性も多く抱えています。そのためには、その活用方法についての十分な準備が必要となります。このような時代を背景に、今回のシンポジウムでは、『ICTを活用した看護イノベーション』と題して行いました。

シンポジストは、日本看護研究学会から柏木公一先生、日本看護科学学会から東ますみ先生、日本看護学教育学会から大池美也子先生、日本看護管理学会から良村貞子先生をお迎えし、第一線で看護情報に関わっておられる方々から、看護ケアの向上、ケア対象者の尊厳、人間的な関わりを実現するICTを活用した看護のイノベーションについてお話をいただきました。

まずは、柏木先生（国立看護大学校）には、東大病院の情報化に関わったご経験から、病院での看護情報の電子化などについて、現状の課題や問題点などの内容についてお話ししていただきました。東ますみ先生（兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科）からは、「慢性疾患患者への継続看護を支援するICTの活用と人材育成」と題して、ご自身の研究成果を交えて、『遠隔看護支援システム』を使用した糖尿病患者への

セルフマネジメント支援についてのお話をいただきました。近年の病院情報システムの導入が急ピッチで進む中、看護職にも情報処理やコンピュータ科学に精通する人材の育成が求められるとし、看護情報専門看護師の必要性について提言されました。

大池美也子先生（九州大学医学部保健学科看護学専攻）は、「情報教育の推進とe-Learning」と題して、e-Learningの看護学教育における活用方法と課題について、ご自身の具体的な事例をもとにお話しいただきました。看護学教育でのe-Learningの効果的な活用方法についてのご示唆をいただきました。良村貞子先生（北海道大学医学部保健学科）からは、「情報の進歩と法的課題」と題して、医療法の第5次改正（2007年4月施行）を受けて、患者の視点に立った安全・安心で質の高い医療の提供を目指すものであり、「医療計画制度の見直し等を通じた医療機能の分化・連携の推進」「医療安全の確保」「患者等への医療に関する情報提供の推進」などがその柱とされている...との報告があり、このような大きな社会変革および医療政策の転換期において、看護職者には今までの文書中心の看護記録、看護要約、看護添書等の情報管理に加え、施設内の電子媒体による情報伝達のほか、施設や機関の間におけるネットワークやインターネット等を活用した情報提供や管理、個人情報取り扱いについて、法的な立場からの提言がなされました。

以上の講演内容は、看護系学会協議会のホームページ（<http://www.jsns.info/>）で公開しておりますのでご覧ください。



第9回シンポジウムのお知らせ

日本看護系学会協議会・日本学会会議看護学分科会共催

看護の役割拡大に向けてのイノベーション

日時：6月13日（金）13：00 - 15：00

場所：日本学会会議講堂

司会	南 裕子	日本学会会議会員	
シンポジスト	井部 俊子	日本看護管理学会	山本あい子 日本母性看護学会
	金川 克子	日本地域看護学会	小松 浩子 日本がん看護学会
	太田喜久子	日本学会会議看護学分科会	

日本学会会議との連携による看護学の発展

日本看護系学会協議会理事 野 嶋 佐由美

日本看護系学会協議会の役員及び会員は、日本学会会議の看護学分科会を通して「後期高齢者」「小児救急医療」「子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会」「子どもの健康分科会」「高齢者・パブリックヘルス分科会」「生活習慣病対策分科会」「終末期ケア分科会」などに参加している。そして、各分科会で、看護学の視点やケアに基づく見解を述べ、学術の世界に挑戦し、新たな科学の芽生え、またそれによる国民の健康増進や安心して健やかに暮らすことのできる社会の構築を目指している。

日本学会会議は、深刻な課題を抱える医療界に対して、医療の仕組みのイノベーションが必要であるとの判断から、長期的な視点で持続可能な医療を構築するために、「医療のイノベーション検討会議」（課題別委員会）を設置した。看護界からは南裕子理事が参加し、国民に安心と安全を届ける医療のあり方、および国民の視点に基づいた「医療のイノベーション」を議論している。また、会議での検討内容は日本看護系学会協議会に随時報告され、医療のイノベーションにおける看護の果たすべき役割を検討している。

この流れの中で、平成19年度は、日本学会会議の看護学分科会と密な連携を図り、国民の健康生活の実現に向けて、医療制度改革における看護の役割拡大・裁量権に関する検討会を2回にわたり開催することができた。限られた時間の中ではあったが、検討会では6つの学会（日本助産学会、日本母性看護学会、日本糖

尿病教育・看護学会、日本新生児看護学会、日本精神保健看護学会、日本小児看護学会）による意見交換が行われた。各学会の役割拡大・裁量権に関する意見には、多くの共通点が見られた。それは、処方や検査、継続ケアに関する裁量権、患者・家族への教育やカウンセリングに関する裁量権、居宅でのケアや看取りに関わる裁量権を求める声である。そして、これらの能力をさらに発展させていくために、高度実践看護師の教育に関する意見も挙げられた。

また、本年2月、「終末期医療のあり方について 亜急性期の終末期について」の対外報告を発表した日本学会会議の臨床医学委員会終末期医療分科会には、内布敦子委員、小松浩子副会長、南裕子理事が参加し、対外報告には生命を育み愛おしむ看護の視点が盛り込まれた。さらに、毎年、日本学会会議の協賛を得て開催しているシンポジウムが、本年は、日本学会会議講堂にて「看護の役割拡大に向けてのイノベーション」というテーマで開催される予定である。

このように、日本学会会議との連携を構築していくなかで、日本看護系学会協議会には、定期的に日本学会会議の公開講演会のニュース・メールが届くようになった。また、他学問分野の方から「看護の活躍ぶりを知った」とのコメントや、若い看護学者が新たな学術領域に関心を持ち他分野の講演会に参加するようになったとの話も聞かれるようになった。日本学会会議との連携による効果は着実に表れているといえよう。

平成20年度 日本看護系学会協議会総会開催のお知らせ

日 時：平成20年6月13日（金） 15：30～17：30

場 所：日本学術会議講堂

東京都港区六本木7丁目22-3

（東京メトロ千代田線 乃木坂下車 徒歩2分）

各学会からのご出席をよろしくお願いいたします。

日本看護系学会協議会会員名簿（平成20年4月1日）

会 員 名	会 員 名
・高知女子大学看護学会	・日本在宅ケア学会
・聖路加看護学会	・日本手術看護学会
・千葉看護学会	・日本小児看護学会
・日本家族看護学会	・日本循環器看護学会
・日本看護科学学会	・日本助産学会
・日本看護管理学会	・日本新生児看護学会
・日本看護技術学会	・日本腎不全看護学会
・日本看護学教育学会	・日本精神保健看護学会
・日本看護教育学会	・日本赤十字看護学会
・日本看護研究学会	・日本地域看護学会
・日本看護診断学会	・日本糖尿病教育・看護学会
・日本看護福祉学会	・日本難病看護学会
・日本看護歴史学会	・日本不妊看護学会
・日本がん看護学会	・日本母性看護学会
・日本救急看護学会	・日本慢性看護学会
・日本クリティカルケア看護学会	・日本ルーラルナーシング学会
・日本災害看護学会	・日本老年看護学会（計34学会）

【役 員】

会 長 太 田 喜久子

副会長 金 川 克 子

副会長 小 松 浩 子

理 事（会 計） 亀 岡 智 美

理 事（企画・広報） 川 口 孝 泰

理 事（会 計） 小 山 眞 理 子

理 事（庶 務） 田 代 順 子

理 事（庶 務） 手 島 恵

理 事（企画・広報） 野 嶋 佐 由 美

理 事（庶 務） 松 谷 美 和 子

理 事（学 術 会 議） 南 裕 子

監 事 川 嶋 み どり

監 事 佐 藤 禮 子

（アイウエオ順）

- 編集後記 -

日本看護系学会協議会は、日本学術会議の協力学術団体として、今年度は医療イノベーションにおける看護裁量権について会員学会の発言をまとめる機会を設けた。また、日本看護協会からの依頼による「診療行為に関わる死亡調査モデル事業」への協力など、専門職者の学術団体としてのアカウンタビリティが求められている。医療や看護の現状の何をどのように改革していくのがよいか、会員学会との連携を深め意見をまとめて、公の福利のために発信していきたい。

URL : <http://plaza.umin.ac.jp/jsns/>

（庶務担当理事 松谷美和子）

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先					宛先 (担当者)	ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail		
1 高知女子大学看護学会	松本 女 里	781-0111	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-5524	(088)-847-5524		松本 女 里	http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
2 聖路加看護学会	田代 順 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1	(03)-3543-6391	(03)-5565-1626		田代 順 子	http://sinr.umin.jp/
3 千葉看護学会	正木 治 恵	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内 成人看護学教育研究分野	(043)-226-2426	(043)-226-2421		佐藤 まゆみ	http://cans.umin.jp/
4 日本家族看護学会	石垣 和 子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部訪問看護学 教育研究分野内	(043)-224-6805	(043)-224-6805	family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp	石垣 和 子	http://square.umin.ac.jp/jarfm/
5 日本看護科学学会	南 裕 子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)-5805-1280	(03)-5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	南 裕 子	http://jans.umin.ac.jp
6 日本看護学教育学会	佐藤 禮 子	105-0012	東京都港区芝大門2-12-6 芝八ツビル402	(03)-5472-7455	(03)-5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	佐藤 禮 子	http://www.jane-ns.org
7 日本看護管理学会	佐藤 工キ子	104-8560	東京都中央区明石町9-1 聖路加国際病院 看護管理室内 日本看護管理学会事務局	(03)-5550-7005	(03)-3544-0649	uramiyu@luke.or.jp	佐藤 工キ子	http://janap.umin.ac.jp
8 日本看護技術学会	小坂橋 喜久代	371-8511	群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学医学部保健学科 統合医療プロジェクト室内	(027)-220-8907	(027)-220-8907	jsnas@health.gunma-u.ac.jp	小坂橋 喜久代	http://www.jsnas.jp/
9 日本看護教育学会	永野 光 子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部看護学教育 教育研究分野気付	(043)-226-2397	(043)-226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟 島 なをみ	http://jasne.umin.jp
10 日本看護研究学会	山口 桂 子	260-0856	千葉県千葉市中央区亥鼻1-2-10	(043)-221-2331	(043)-221-2332	jsnr@bridge.ocn.ne.jp	山口 桂 子	http://www.jsnr.jp
11 日本看護診断学会	江川 隆 子	160-0022	新宿区新宿1-15-11 イマキレビル桐グローバルエクス プレス・国際会議センター内	(03)-3352-6223	(03)-3352-5421	jsnd@convention-access.com	安田 緑	http://jsnd.umin.jp/
12 日本看護福祉学会	岡崎 美智子	607-8175	京都市山科区大宅山田町34 京都橋大学看護学部内	(075)-574-4251	(075)-574-4251	okazaki@tachibana-u.ac.jp	岡崎 美智子	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
13 日本看護歴史学会	川島 みどり	990-9585	山形市飯田西2-2-2 国立大学法人山形大学医学部 看護学科	(023)-628-5432	(023)-628-5432	satana@yubin.nrs.kitasato-u.ac.jp; nhistory-gakkai@umin.ac.jp	田中 幸子	satana@med.id.yamagata-u.ac.jp
14 日本がん看護学会	佐藤 禮 子	650-8530	神戸市中央区港島1-3-6 兵庫医療大学看護学部内	(078)-304-3000	(078)-304-2714		鈴木 久美	http://jscn.umin.jp
15 日本救急看護学会	中村 恵 子	564-0052	大阪府吹田市広芝町18-24 メディアカ出版内		(06)-6310-9901	jaen-adm@umin.ac.jp	中村 恵 子	http://jaen.umin.jp
16 日本クリティカルケア看護学会	井上 智 子	113-8519	東京都文京区湯島1-5-45 医科大学大学院保健衛生学研究科 先端医療緩和ケア看護学分野内		(03)-5803-0156		井上 智 子	http://jaccn.umin.jp/
17 日本災害看護学会	南 裕 子	650-0044	兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-3 兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科内	(078)-367-8630	(078)-367-8630	azuma@ai.u-hyogo.ac.jp; jsdnjimukyoku@cnas.u-hyogo.ac.jp	東 ますみ	http://www.jsdn.gr.jp/
18 日本在宅ケア学会	白澤 政 和	105-0001	東京都港区虎ノ門3-7-2 榊ワールドプランニング内	(03)-3431-3715	(03)-3431-3325		白澤 政 和	http://plaza.umin.ac.jp/~jahhc/
19 日本手術看護学会	久保田 由美子	113-0033	東京都文京区本郷3-24-8 第一今村ビル4F	(03)-3813-0485	(03)-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	坂崎 幸子	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
20 日本循環器看護学会	井部 俊 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学 井部俊子研究室内	(03)-5550-2274	(03)-5550-2274	office@jacn.jp	滝口 珠子	http://janap.umin.ac.jp
21 日本小児看護学会	片田 範 子	166-8532	東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局	(03)-5307-1175	(03)-5307-1196	jschn@univcoop.or.jp	片田 範 子	http://jschn.umin.ac.jp/
22 日本助産学会	堀内 成 子	111-0054	東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階	(03)-3865-3032	(03)-3866-3032	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	杉山 ちよ子	http://square.umin.ac.jp/jam/
23 日本新生児看護学会	横尾 京 子	734-8551	広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科内	(082)-253-4636	(082)-253-4636	yokoo@hiroshima-u.ac.jp	藤本 紗央里	http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
24 日本腎不全看護学会	水附 裕 子	231-0013	神奈川県横浜市住吉町1-4 第3白井ビル5-A	(045)-226-3091	(045)-226-3092	uda-jann@yk.rim.or.jp	宇田 有 希	http://www11.ocn.ne.jp/~jann1/
25 日本生殖看護学会	森 明 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本不妊看護学会事務局	(03)-5550-2266	(03)-5550-2266	jsin@slcn.ac.jp	森 明 子	http://jsin.umin.jp
26 日本精神保健看護学会	田中 美恵子	169-0075	東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文庫印刷社内	(03)-5389-6254	(03)-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	永井 優 子	http://www.japmhn.jp/
27 日本赤十字看護学会	新道 幸 恵	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0722	(03)-5485-5777		守田 美奈子 (担当理事)	http://plaza.umin.ac.jp/jrcns/
28 日本地域看護学会	小西 美智子	471-8565	豊田市白山町七曲12-33 日本赤十字豊田看護大学内	(0565)-36-5111	(0565)-37-8557	konishi@rectoyota.ac.jp; chikango-acd@umin.ac.jp	小西 美智子	http://jachn.umin.jp/
29 日本糖尿病教育・看護学会	嶋 森 好 子	116-0003	東京都荒川区南千住7-24-24-822 日本糖尿病教育・看護学会事 務局内		(03)-3802-0860	jadenfish2008@yahoo.co.jp	嶋 森 好 子	http://jaden.umin.ac.jp/
30 日本難病看護学会	牛込 三和子	183-8526	東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)-325-3881	(042)-328-7311		牛込 三和子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
31 日本母性看護学会	高橋 眞 理	228-0829	神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 日本母性看護学会 事務局	(042)-778-9826	(042)-778-9826	jsmn@mcn.ac.jp	竹 明 美	http://www.mcn.ac.jp/bosei/
32 日本慢性看護学会	野並 葉 子	673-8588	兵庫県明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石キャンパス	(078)-925-9447	(078)-925-0878	chronic.n@cnas.u-hyogo.ac.jp	野川 道子	http://jscicn.com/
33 日本ルーラルナーシング学会	野口 美和子	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内		(0285)-44-7257	ynagai@jichi.ac.ac.jp	永井 優 子	
34 日本老年看護学会	中島 紀恵子	943-0147	新潟県上越市新南町240 新潟県立看護大学 日本老年看護学会事務局	(025)-526-3117	(025)-526-3117	world@med.email.ne.jp	中島 紀恵子	http://www.rounenkango.com/